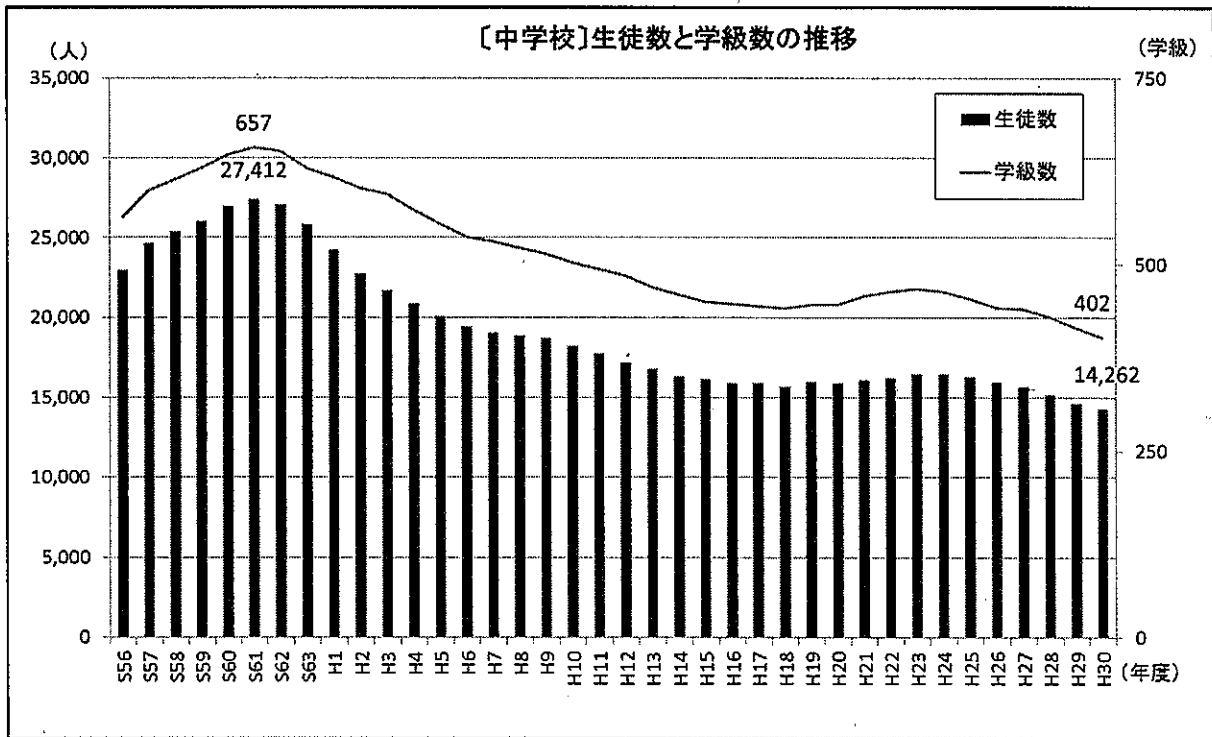
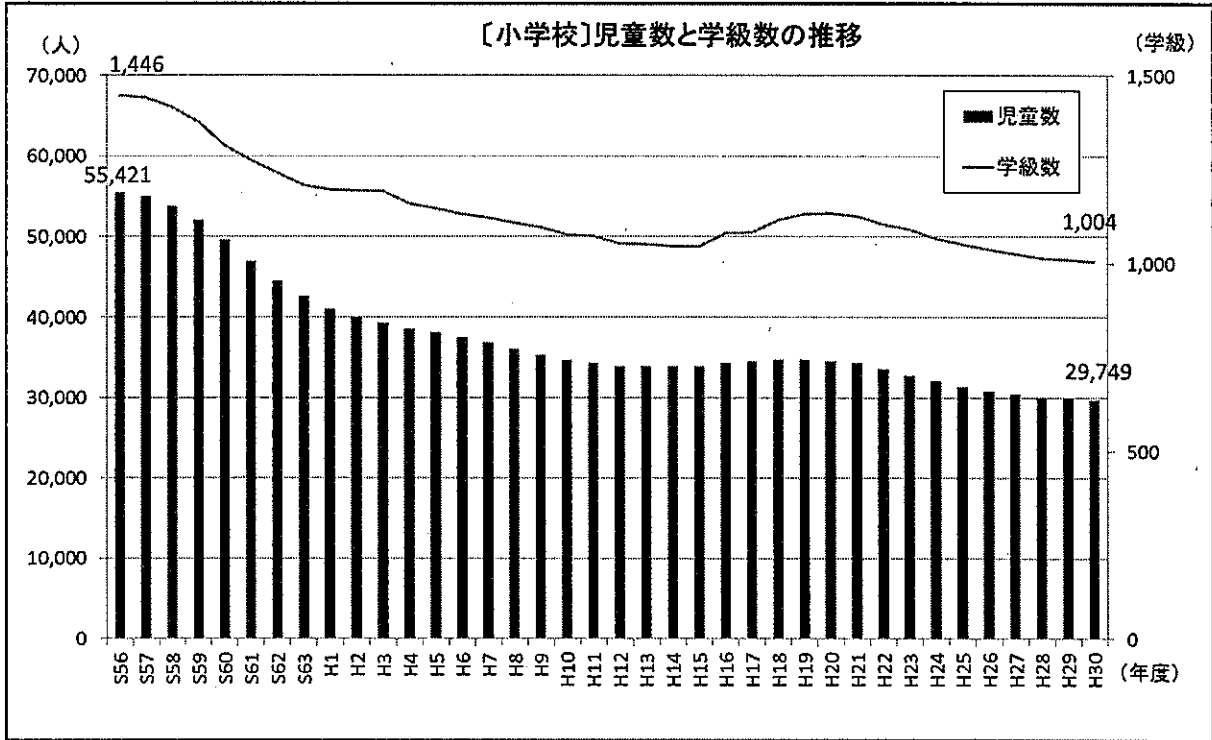


児童生徒数の現状と見込みについて

1 市立小・中学校の児童生徒数と学級数の推移

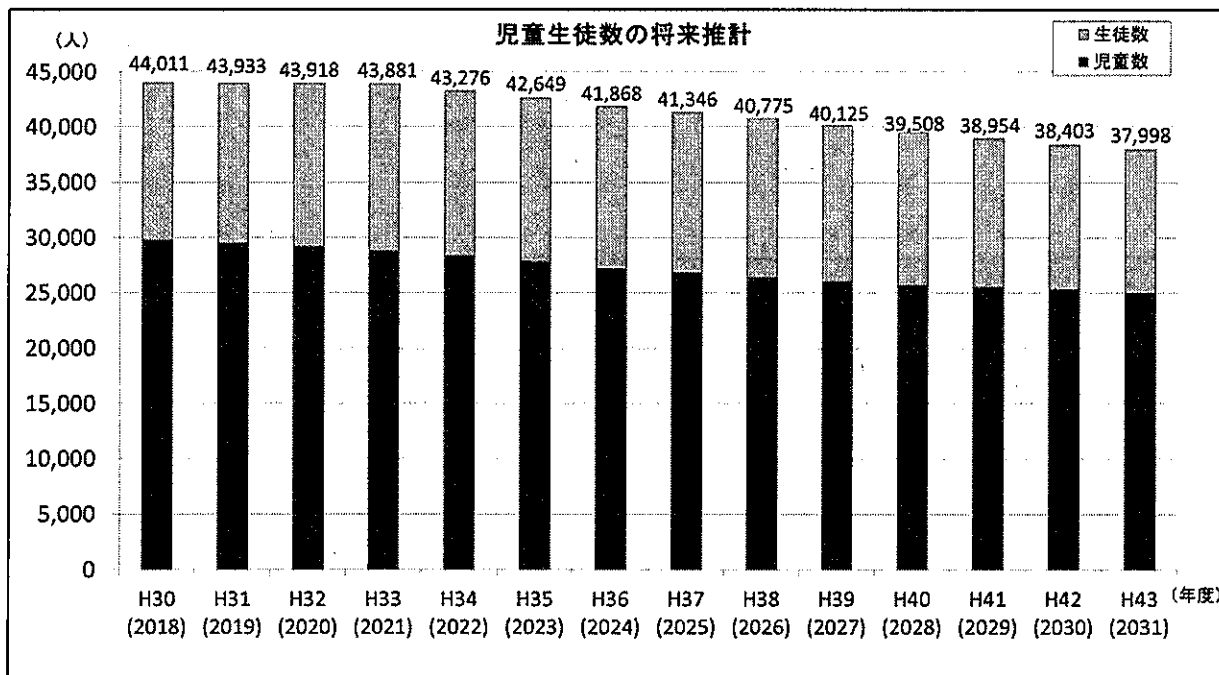


児童生徒数は、第2次ベビーブーム以降、昭和57年度の79,682人をピークに減少傾向にあり、平成30年度においては、44,011人とピーク時の約55%となっており、約36,000人減少している。

一方、小学校（義務教育学校含む）の学校数は昭和30年代より分離新設を繰り返し、児童数のピークである昭和56年度に69校、その後、昭和59年度に73校（分校2校を含む）に増加し、現在は69校となっている。このように、小学校の学校数はピーク時とほとんど変わらないため、学校の規模は、昭和56年度に1学校当たり21.0学級あったものが、平成30年度には14.6学級となっている。

次に、中学校（義務教育学校含む）の学校数は、生徒数のピークである昭和61年度に34校、昭和62年度に35校となり、現在に至っている。学校の規模は、昭和61年度に1学校当たり19.3学級あったものが、平成30年度には11.5学級となっている。（平成17年度以前については、合併前の1市4町の合計で算定している。）

## 2 将来的な見込み



今後の児童生徒数は、現在の0歳から5歳までの乳幼児数から推測すると、平成36年度(2024年度)には約41,900人となると見込まれる。

また、平成43年度(2031年度)には約38,000人となることが予測され、平成30年度(2018年度)に比べ約6,000人減少する見込みである。これは、第2次ベビーブーム以降児童生徒数がピークであった昭和57年度の79,682人と比べると約48%まで減少することになる。